［シリーズ］ わがまちのササエさんとマモルくん

医療・介護・福祉の 地域ネットワークづくり 事例集

――住民、多職種、行政が協働する包括ケア

監修：辻 哲夫 東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授

地域を変える！ 自分たちが創る！

支え合う介護、医療、予防、生活支援を核にした、
まちづくりの“強化書”

銀木犀グループ（株式会社 シルバーウッド）

「地域のハブ」の子どもとママを招き入れる 地域で孤立しない高齢者住宅

「子ども」を招き入れる

株式会社シルバーウッドが率いる「銀木犀」グループは、全国に先駆けて、看取りに対応するサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）等を運営している。入居者が安心して最期まで生ききる場にふさわしくするため、地域の人々が自然に共用部分に出入りし、くつろげる居場所を実現している。そのためには、「しかけ」と「発信」、リスクをカバーする繊細な努力をしつづける覚悟が必要だ。

株式会社シルバーウッド代表の下河原忠道さんは、家業の建築業を強みとして、福祉先進地域の北欧のデザインで高齢者住宅を建てた。シンプルで介護向き、おしゃれで優しさを感じさせる。住宅地にこんな建物が建つだけで、周辺の地域の人々の目と興味を引く。それが地域を巻き込むねらいもある。

銀木犀が地域包括ケアの視点から革新的なのは、当初から徹底的に「出入り自由」にこだわったことにある。「サ高住は、賃貸借契約を結ぶ集合住宅。『ケア付き』なだけで、入居者を『管理』する施設ではなく、一般のアパートと同じ。その基本に忠実に運営しています」と、数カ所の

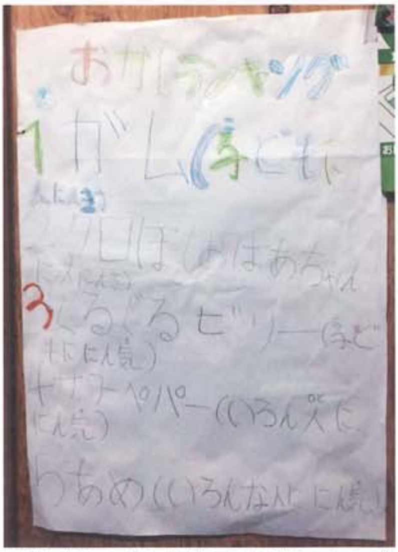
駄菓子屋のレイアウト。左が銀木犀浦安、右が銀木犀鎌ケ谷

放課後4時ごろ、子どもたちが食堂でくつろぐ銀木犀浦安。オープンから1年弱。子どもは居場所にとけこむのが早い

銀木犀立ち上げに関わった、現・銀木犀浦安（千葉県）所長の麓慎一郎さんは話す。入居者は寝坊や食事も自由。出前も可能、外食・外出も自由。そして、外部からむしろ積極的に地域の人を招き入れる。

銀木犀の1階部分は、地域の人々の居場所になるように、コミュニティースペースや食堂エリアを広く居心地よくしつらえる。なかでも「子ども」を招き入れるしかけとして、銀木犀では、鎌ケ谷、富岡（いずれも千葉県）、浦安などのサ高住に駄菓子屋を作った。

宣伝はほとんどしない。銀木犀東砂（東京都江東区）入居者が作った「だがしやあります」の看板やのぼりが、登下校する子どもたちの目にとまる場所に示している程度である。ただ、駄菓子屋に来た子どもたちには、「なかで食べていっていいよ」と声がけをする。さらに子どもの人気商品をなるべく欠品させない。地道な働きかけのようだが、これだけで浦安は月に平均30万円を売り上げる。



子ども制作による「駄菓子売れ筋ランキング」のPOP

両親・祖父母・兄弟姉妹・友人・先生など、複数の地域ネットワークが一人の子どもを取り巻き、子どもは「地域のハブ」ともいえる。銀木犀鎌ケ谷の近くに住むIくん（9歳）は「下校が同じルートの人は看板で駄菓子屋のことをみんな知っている。他のルートの友達もときどき誘って、家にカバンを置いてから来る。土日もお父さんと来ることがある」と話してくれた。麓さんは「地域の方々と絡むには、子どもたちが一番アクティブ。駄菓子屋はよいツールです」と語る。

入居者を巻き込む

駄菓子屋に職員が常駐しているわけではない。銀木犀浦安では入居者の力を借りて仕入・陳列・会計などを行う。入居前の見学時に、入居後のお手伝いを予め

ハロウィンイベント。駄菓子屋の会計・売店の販売を担う入居者さん（仮装中）と、イベントに参加した子どもたちが交流

放課後に立ち寄った子どもたちを見て、寄ってきて、頭をなでる入居者さん

打診する。銭湯の番台や商店主などが仕事だった入居者には、会計は馴染みある作業だ。子ども客のピークとなる放課後は特に忙しく、浦安では1人の入居者に1日3～4回、店番を依頼することもあるという。

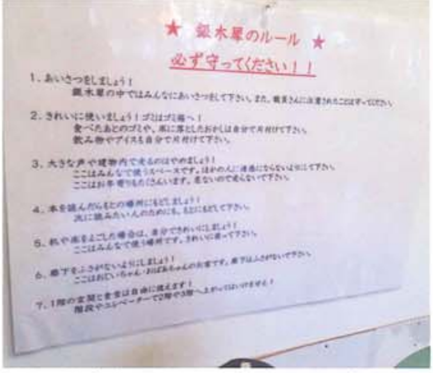
最近は、入居者だけでなく、近隣住民に店番をお願いすることもある。デイサービスを拒否し引きこもりがちな人が、駄菓子屋の店番を始めてから引きこもら

ず、記憶保持も改善しつつあるという。

入居者が店番しやすいよう、銀木犀各事業所は工夫をこらす。浦安では、棚ごとに10円商品、20円商品など金額ごとに陳列する。店番の人は、それを覚えたり、子どもと会話しながら会計をする。鎌ケ谷では、「計算してもってきてね」と、子どもたちに計算を任せる。銀木犀鎌ケ谷所長の小嶋美江さんは「うちの子もここで計算が得意になりました」と話す。クレームも来ない。

鎌ケ谷では、子どもたちを提供側に取り込む工夫もしている。レイアウトや（字が間違っているものの）POP作成、陳列などを手伝ってくれる。小嶋さんの長男のSくん（10歳）は「店の手伝いは楽しい。お客さんの笑顔が嬉しい」という。

地域の子どもたちは銀木犀で自然に「老い」と「死」の傍らにいる。それを感じる機会を得て、価値観を持ち帰り、地域に広めてくれる。



多様な人が集まると、マナーやルールが衝突するリスクもある。挨拶・ゴミ・靴の並べ方など目立つ点は張り紙で対応

ママたちや自治会を招き入れる

日中、地域にいる大切な登場人物には「ママ」もいる。子育て中のお母さんは、なかなか日中いられる場所がなく、孤独になりがちだ。6歳・4歳・0歳の子どもをもつFさん（35歳。銀木犀鎌ケ谷近隣在住）は「自分もくつろげて、子どもも他の人とふれあいながら落ち着いていられる場所があるのはありがたいです。免許のない私には、子どもと歩いて行ける範囲にそういう場所があるのは貴重です」と話す。

Fさんのようなママたちも、幼稚園・小学校・中学校各層のママ友ネットワークへの広がりの可能性をもつ。銀木犀は、このママたちを銀木犀に招き入れるしかけにも力を入れる。乳児を寝かせられる小上がりなどのしつらえをしたり、食堂を利用したダンス教室などママ向けのイベントを開催する。ママたちは、高齢者住宅で入居者の隣に座りながら時間を過

銀木犀鎌ケ谷の食堂。広いスペースでお母さんと子どもたちがゆったり遊べる居心地のいい居場所

銀木犀鎌ケ谷の銀木犀夏祭り。自治会ボランティアが和太鼓と踊りを担当

ごし、子どもとくつろぐ。入居者やその家族、スタッフなどと自然なふれあいが生まれ、ネットワークが広がる。

また、新規参入の高齢者住宅は地縁組織から浮きがちだが、銀木犀は自治会とも自然な結びつきを構築している。銀木犀鎌ケ谷の場合、開設時に地域自治会に挨拶に行き、出入り自由で、最期まで住み続けられる高齢者住宅が地域に存在することを認識してもらった。すると、自治会員が銀木犀にボランティアに来るなどのつながりができた。2017年の銀木犀主催「銀木犀夏祭り」では、自治会から約50名のボランティアが参加。地域の公文学習塾とも連携し、結果、約500名が参加、300食のフランクが完売した。夏祭り終了後、自治会から提案があり、次年はより早い3月から準備を始め、お互いをよく知るため定期交流会も行われる予定になった。

夏祭りでは駄菓子の詰め合わせ300セットが売れ残った。賞味期限がある大量のお菓子。自治会に「困ってて…」と打ち明けたところ、子ども会で使うからと購入してくれた。所長の小嶋美江さんは「高齢者住宅は、地域とつながれたら、もっとSOSを『発信』していいのでは。そこにきっと知恵があるはず」と話す。

銀木犀鎌ケ谷所長の小嶋美江さん（左）。入居者さんと一緒ににっこり

出る自由を叶える

多くの高齢者施設が「外出のリスク」「スタッフ不足」で施設玄関を施錠することが多いなか、銀木犀では「入居者が自由に出られる環境」にもこだわる。下河原さんは「誰でもあたりまえにしてきた『外出』が、高齢者施設では奪われがち。認知症の方の場合、施錠されていることが不安につながり、余計に『出たい』

気持ちを起こしてしまう。自由に出られる安心感が、外出欲求を抑えることも少なくありません」と話す。

以前、銀木犀鎌ケ谷で道迷いリスクのある入居者の外出欲求に対しスタッフと家族で協議し、曜日ごとに、家族・デイサービス・銀木犀スタッフで見守りを分担して対応した。その結果、毎日外出できる状況になったが、外出欲求は月2回程度まで減少したという。

高齢者の住まいをオープンにし、近隣の人が入居者を見知っていることは、開放のリスクを低減させる。銀木犀の入居者が道迷いした際にも、近所の子どもの一人が、「銀木犀のおばあちゃんじゃない？」と気づき、早い発見に至ったこともあるという。

施錠の是非には、現場スタッフにもさまざまな見解がある。銀木犀鎌ケ谷では、スタッフの問題意識や煩悶を管理者がすくい上げ、取り残さないようにしている。すのうえで、スタッフの話し合いに基づくケアで施設の開放を実現している。

銀木犀は、華やかな外観とは反対の地道なしかけで、子ども・ママ・自治会・入居者家族を巻き込み、外から銀木犀という住まいがよく見えるようにしている。安易に閉ざしてしまうのではなく、リスクに細やかに対応する覚悟をもって開放し、「発信」しつづけることで、住まう人々が最期まで、まちの一部として生きることを叶えようとしている。

（西村舞由子）

暗くなってからも外出する入居者さんと、つきそう銀木犀スタッフ

外出欲求のある人への見守りのポイント
（銀木犀鎌ケ谷の場合）

- 一人で出ても問題ない入居者と、注意が必要な入居者を把握しておく。
- スタッフが出入口付近に注意をし、音がしたら目を向け、誰が出入りしているかを確認する。
- 夜間帯などスタッフがごく手薄な時間帯は、施錠せざるを得ないときもある。その時でもチャイムにすぐ出られるように配慮する。
- 問題が生じたときは、必ずスタッフで共有する。必要なら家族とも共有し、協力も視野に入れつつ解決を模索する。

株式会社 シルバーウッド

代表取締役　下河原忠道
東京事務所：東京都港区南青山3-2-2
MRビル7F
TEL：03-3401-4001（代表）

銀木犀〈浦安〉
所長　麓慎一郎
千葉県浦安市
富士見4-3-1
TEL：047-700-7900

銀木犀浦安の居室の様子

銀木犀〈鎌ケ谷〉
所長　小嶋美江
千葉県鎌ヶ谷市南鎌ヶ谷1-5-28
TEL：047-441-6636
2013年11月開設